

山小通信

自分らしく生きる

校長 廣居 克彦

師走に入り朝夕の冷え込みが厳しさを増してきました。校庭の木々も葉を落とし冬の訪れを感じる季節となっています。長かった2学期もいよいよ24日に終業式を迎えることとなりました。保護者や地域の皆様には、オープンスクール・学習発表会・校内マラソン大会・ゲストティーチャーなど、たいへんお世話になりました。本当にありがとうございました。

さて、先日山崎文化会館で「ルネッサンス」のフリースと貴族の衣装でワイングラスを乾杯する漫才でおなじみのお笑いコンビ、髭男爵の山田ルイ53世さんの講演を聴きました。とても大切なことを教えてくださいましたので紹介します。

山田さんは兵庫県三木市出身で、子ども時代は勉強もスポーツもできる「神童」だったそうです。小学6年生の時に中学受験を思い立ち、みごと名門中学に進学しました。授業はノートをきれいに取り、サッカー部もレギュラー。宿題や予習も手を抜かず、寝る時間が午前0時を回っても、翌朝は5時には起床して片道2時間の通学をしていました。「このままいけば東大へいける」と先生に言われ、親が喜んでくれるのがうれしくて、ほめられることをガソリンに生きているという感じだったそうです。中学2年生の夏休み前、登校途中に粗相をしてしまい早退しました。優等生でなければならぬという思い込みが強くて、その日を境にベッドから出られなくなってしまうました。それから6年間の引きこもりの生活が始まりました。同じ頃、儀式め



いたルーティーンに縛られるようになり、勉強をする前には部屋に掃除機をかけ、机や文具を拭き、自分にもロール状の粘着テープをあててコロコロします。全部、完璧にきれいにしないと本題に入れなくなっていました。やめたいのに、やらないと気が済まない。最終的には、定規で文字を書くようになっていました。

いざ引きこもると、それまで自尊心を満たしていた価値あるものや、価値を生み出す環境のほとんどが学校にあることに気がつきました。最初は、とんでもない罪悪感に襲われましたが、自宅から一歩も出られませんが、中3を2回繰り返した後、学校を辞めました。同年代の成人式のニュースを見て焦り、大検を受けて国立大学に合格し、停止していた人生をとりあえず動かしました。でも、引きこもる以前に思い描いたものとは全く違う人生に意味を見いだせず大学を中退し、芸人の道へ進みました。

山田さんは髭男爵「ルネッサンス」でお笑い芸人として一躍有名になりましたが、その後仕事が激減し、現在は、テレビ、ラジオ、イベント、講演会、執筆業をされています。引きこもりの経験から「引きこもりの時は絶望的に人生が閉じてしまい、もう死ぬしか選択肢がないとまで思ったことがありました。でも、生きることを諦めそうになったら、人生のハードルを下げてください。理想とする自分を諦めてあげることでも大事なことだと思います。」ということ「今のネット社会の中では、SNSをとおして人と比べたり、いつも輝いていないといけないと思いついていませんか？キラキラしていない自分に落ち込むことはありませんか？キラキラしていないか？と熱く話さない義務なんてありません。」

れました。この講演を聞いて「自分らしく生きる」ことの大切さを感じました。周りに流されず自分の信じた道を自分らしく生きることは、難しいことかもしれませんが、自分に自信をもって自分を好きになることが、人と比べない生き方の第一歩だと感じました。子どもたちにも「自分らしく生きる」ことの大切さを伝えていきたいと思っています。

共に育む、未来への一歩

特別支援教育の取り組み

特別支援コーディネーター 大前 千賀子

「特別支援教育」とは、特別支援学級だけを対象とするものではありません。それは、一体誰を対象にしたものなのでしょうか。

「特別支援教育」の基本にあるのは、子どもたち一人ひとりの特性に応じた支援を行うことです。そして、そのスタート地点は「みんな違う」という視点に立つことにあります。子どもを大切に育てる教育の理念自体は、古くから語られてきたものでもありますが、現代においては特に個別のニーズに答える取り組みが重要視されています。目の前にいる子どもが何に困っているのか、どのような特性を持っているのかを丁

12月 行事予定

- 17日(火) 放課後チャレンジ塾
- 19日(木) 読み聞かせ
- 20日(金) 給食最終日
- 自治別児童会
- 24日(火) 2学期終業式
- 25日(水) 冬季休業日開始



1月



- 8日(水) 始業式
- 9日(木) 自治別児童会
- 10日(金) 創立記念日
- 13日(月) 成人の日
- 14日(火) 給食開始
- 15日(水) 発育測定 (高学年)
- 15日(水) 発育測定 (低学年)
- 校報発行
- 16日(木) 読み聞かせ
- 大豆学習 (3年)
- 17日(金) 1・17追悼式、避難訓練
- 18日(土) 市小中書初展 (~19日)
- 23日(木) 新入生体験入学
- 読み聞かせ
- 24日(金) 学校評議員会
- 29日(水) 集金日
- 30日(木) 読み聞かせ
- 31日(金) 入学説明会

図書寄贈のお礼

西兵庫信用金庫、HBI株式会社より、児童用図書を寄贈していただきました。ありがとうございました。

寧に把握し、その子に必要な支援を考えることが大切です。例えば、「読み書きが苦手」「集中が続かない」「感情のコントロールが難しい」「聴覚的な情報処理が苦手」といった子どもには、次のような支援が効果的です。
視覚的支援が有効な教材の活用
教室環境の整備 (余計な視覚情報を排除)
先の見通しをもたせる工夫
スモールステップで取り組ませ、自己肯定感を育む

これらの対応策は、特別なニーズのある子どもに限らず、他の多くの子どもにとっても有益であることが多く見られます。つまり、「特別支援教育」とは限られた子どもだけではなく、すべての子どもにとってより良い教育を目指すものなのです。本校には現在、273名の児童が在籍しています。効果的な支援体制を構築し、インクルーシブな教育環境のさらなる充実を図れるよう、今後も「特別支援教育」を進めていきたいと考えています。